

Junior Sunshine

小学校英語情報誌

2017
Vol.1-1



那覇市立真和志小学校



C O N T E N T S

巻頭言 2
萬谷 隆一(北海道教育大学札幌校教授)

特集 ICT教材活用術
萩野 浩明(神奈川県川崎市立高津小学校教諭) 3
福岡 なをみ(福山女学園大学附属小学校教諭) 4
栄利 滋人(宮城県仙台市立国見小学校教諭) 5

私の実践紹介 6
新城 秀樹(沖縄県那覇市立真和志小学校教諭)

お悩み相談 7
大城 賢(琉球大学教授)
渡辺 浩行(宇都宮大学教職大学院教授)

SAY "HELLO" WITH ALISON! 8
根本 アリソン(宮城教育大学特任准教授)

開隆堂

巻 頭 言

新しい外国語科に向けて： 2つの「いきなり」について 考える

北海道教育大学札幌校教授 萬谷 隆一



これまでの外国語活動では、多くの子どもたちが英語に対して興味を抱いていると報告されています。しかし、そうした成果がある一方で、これまでの外国語活動で懸念されることとして、2つの傾向が見られます。

- (1) いきなり話させる活動
- (2) いきなり読ませる，書かせる

(1)の「いきなり話させる活動」になる授業では、子どもたちはどうなるでしょうか。まず子どもたちは話すことへの不安が高まり、その結果日本語の使用が増えます。これでは外国語の授業の趣旨から外れてしまいます。次に、カタカナや英語文字を常に見ないと発話できない子どもも増えます。補助として文字を示すことに問題はないのですが、活動で常に文字を見ないと言えないようでは、「読みニケーション活動」になってしまいます。このようなことを避けるために、「いきなり話させる」のではなく活動に至る事前の下地づくりを十分組み込むことを心掛けたいものです。

(2)の「いきなり読ませる，書かせる」授業も、教科化が意識されるようになってから増えてきたように思います。そもそも、新しい学習指導要領における目標でも、全体として「話す・聞く」が優先され、「読み書き」は従属的な扱いとなっています。ぜひ、「教科となるのだから、読み書きが中心になる」という思い込みを持たないようにしたいものです。

「読むこと」は、いきなり読みを導入するのではなく、音声から文字へのていねいな指導が重要です。音声で慣れた単語を読んで、「文字で書くとこうなるんだ！」という気づきが大切です。教師が大人の感覚で、子どもも単語を「読めて当然」と思っているはいけません。最初は絵カードなどで文字を添えておく段階をある程度経てから、徐々に音声活動でよく慣れた単語で、かつ綴りの易しい短い単語から読ませてゆくべきです。学級の中には、読み書きになると急に困難を感じる子どもがいると思われます。ぜひ、そのハードルをどの子も跳べるように、ていねいな指導をお願いしたいと思います。

また、「書くこと」も急ぐべきではありません。まず当該の単語が十分に「聞いて言える」ようになり、かつ「読める」ようになってから、書くことを加味してゆくべきです。小学校段階では、手本を見ながら書き写す程度でよいと思われます。

これまでの伝え合うことを目指した授業づくりを大切にしつつ、教科化に向けては、ぜひ「いきなり話す」、「いきなり読み書く」ことにならないよう、活動前の「下地づくり」を、年間、単元、各授業レベルで、十分に設定することが大切です。

デジタル教材にもう一工夫を!



神奈川県川崎市立高津小学校教諭 萩野 浩明

*Hi, friends!*のデジタル教材は、今や学級担任が主導する授業に欠かせないツールです。特に音声を聞かせたいとき、絵や映像が視覚的に理解を促進してくれるのがデジタル教材の強みです。しかし、ただ“Let’s listen!”と指示を出して音声を聞かせ、みんなで答え合わせをするだけの活動ではもったいないと思います。電子黒板がなくても、あるいは、複雑な機能を知らなくても、まずは次の2つの発想による教材の活用をおすすめします。

1. インタラク션을促す

一斉授業で用いるデジタル教材は、児童どうし、児童と学級担任、児童と教材の間をインタラクティブにつなぐものであるべきだと考えています。多くの活動では、画面の絵や写真(拡大も可能)があることで、“What’s this?”などと児童に問いかけながら場面設定を確認したり、ペン機能で画面に書き込みながら活動の仕方を児童と一緒に実演したりすることが手軽にできます。学級担任がわざと絵と異なる音声を言ったり、誤った答えを画面に示したりするなど、ズレから児童の気づきを引き出すしかけも効果的です。さらに、教材の絵や音声の内容に関連させ、児童や学級担任、教室、地域のリアルな情報についてやり取りすることで、デジタル教材の擬似的な世界がより身近になります。

ただし、いずれの場合も声を上げた一部の児童だけの活動となりがちなので、ペアやグループで考えをシェアするなど、デジタル教材から一旦離れて全員が参加できるようにする、いわばアナログな手法もデジタル教材の

活用を支える大切な視点です。

2. 考える要素を加える

聞く内容を推測させるなど、音声教材に適度な負荷をかけ、思考を働かせる場を設けるようにします。*Hi, friends!*の中の活動で、絵などがあり、根拠をもって答えが予想できるLet’s Listenでは、聞いてから答えを書くのではなく、予想してそれが正しいかどうかを聞いて確かめるというプロセスにします。音声を聞かなくても答えがわかる活動の場合は、ペン機能を使って絵や写真の全体または一部を隠し、児童に考えさせることもできます。

Let’s Chantでは、時には音量調節機能で音声を消して導入してみるのも面白いです。絵や動きを手がかりに、どんな表現が現れるかを予想することができます。語感やリズムがよくて、オリジナルチャンツとしてクラスの財産になることもあります。さらに、児童に与えるインプットの量が足りないと感じるときは、学級担任が音声教材の内容を再構成して言い直し、TF quizzes (○×クイズ)をすることができます。形を変えて同様の表現や語彙にくり返し触れることができると同時に、考えながら聞く場となります。

児童の「聞きたい」「知りたい」「言いたい」という気持ちを高めるために、デジタル教材は大変有効です。上記の視点で膨らませたデジタル教材が主体的・対話的な学びの原体験となるよう、操作の負担が少なく持続可能性のある使い方で活用していきたいものです。

ICTでアクティブ・ラーニング



高山女学園大学附属小学校教諭 福岡 なをみ

文部科学省は、2020年代に向け、教育の情報化を進める方針を示しています。これを受け、本校では2004年度より4年生以上の児童を対象にiPad個人持ちを実施し、電子黒板などのICTを活用した授業実践を行っています。実践を進めるなかで、アクティブ・ラーニングの視点である「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を促す学習ツールとして、ICTが大変有効であることがわかってきました。

*Hi, friends!*のデジタル教材は、「対話的な学び」を促すことができるアクティビティがたくさんあります。たとえば、*Hi, friends! 2 Lesson 4*「道案内をしよう」では、行きたい場所に行けるように、どのような指示を出せばよいかをクラス全体で話し合いながら電子黒板上でアイコンを動かします。デジタル教材を使うと、視覚と聴覚で情報を確認しながら、「対話的な学び」を行うことができます。

また、視聴覚室のパソコンに*Hi, friends!*をインストールすれば、児童一人ひとりがLesson 4に出てくる建物などの発音の確認や練習を行うことができます。自分でカーソルを動かして、自分の興味やペースに合わせて、「主体的な学び」を行うことができます。二人一組やグループで行えば、「対話的な学び」を促すこともできます。

さらに、Lesson 4の学習で学んだ“Go ahead.”などの英語表現を使ってプログラミングに取り組みせることもできます。インターネットで検索すると、児童向けのプログラミングのサイトやアプリには、簡単な英語で取り組めるものが見つかります。プログラミングをゲームのように楽しむなかで、筋道立てて考え、試行錯誤しながら英語による適切な指示の仕方を見出す「深い学び」を体験することもできます。

本校では、iPadに英語学習に役立つアプリをイ

ンストールしています。英語の発音を聞き、英単語を当てるゲームなどに、児童は楽しそうに取り組んでいます。英語の発音と文字を結びつける学習に役立っています。



プログラミングした作品を互いに見合う児童の様子

Show & Tellや、英語劇の練習を行う際には、タブレット端末の動画機能を活用することが有効です。児童どうして発表の様子を撮り合い、見直ししながら、さらによいものにするよう話し合うことで「対話的な学び」を行っています。そして、「もう一度、発音を確かめてみる。」などと、「主体的な学び」を行いながら活動しています。



発表練習で動画を撮り合う児童の様子

このようにして児童は英語の学習内容を習得し、一日英語遠足や外国人講師に岐阜県郡上市の町案内をする活動、さらにはオーストラリアへのホームステイなどを行っています。実際に英語を活用する「深い学び」を実現していくために、ICTが役立っています。

今後も、児童がアクティブ・ラーニングを行う学習ツールとして、ICTを有効に活用していきたいと考えています。

ICT教材でインプットを増やす



宮城県仙台市立国見小学校教諭 栄利 滋人

汗をかかない体育の授業はダメな授業、と言われる。子どもたちが汗をかくくらいの運動量が確保されていない授業だからです。運動量の確保は体育の基本です。では、小学校で行う英語の授業はどうでしょう。私は、英語の音声を聞かせる量の確保が重要だと考えています。45分の授業で英語の音声をどれだけ聞かせているかということが大切です。学級担任が教える英語の授業で、すぐに発話させる授業をしていると、学級担任の日本人的な発音を子どもたちは覚えてしまいます。モデルとなる英語の音声は学級担任なので当然です。そこで学級担任の英語よりも多くネイティブ音声を聞かせる環境が必要になります。では、ネイティブ音声を聞かせる授業をどう行えばいいのでしょうか。そこで、ネイティブ音声を手軽に聞かせることができるICT教材が必要です。学級担任が英語を話すかわりにネイティブ音声を流したり、自信のない表現はネイティブ音声を聞いた直後に真似をして言うなど、自信を持って児童にインプットすることができる授業が可能になるでしょう。

*Hi, friends!*には、文部科学省配付のデジタル教材があります。その中にリズムカルに英語表現を覚えるチャンツがあります。このチャンツを、授業を円滑に進めるツールとして、また会話を成立させるための音声補助として使っています。例えば、児童主体のインタビュー活動では、終わりの合図として流します。ざわざわしている教室で指示を出すのは結構大変です。しかし、チャンツのリズムが流れると児童は席に戻るようになります。さ

らに、それをくり返すことでチャンツが耳に馴染みます。

また、ペアやグループで会話をするときにも活用します。児童に言わせたい表現のチャンツ部分を流して止め、音声が頭に残っているうちにすぐに言わせます。こうすることで安心して英語の会話を成立させることができます。何度も聞いているうちに耳が慣れ、やがてチャンツがなくても言うようになります。一斉に揃ってチャンツを聞かせて会話を進めていくので、質の良いインプットの中で教師が授業の手綱をしっかり握って、クラスをコントロールしながら授業ができます。

自作iPad教材も活用しています。ICT活用のいちばんのポイントはネイティブ音声が出ることです。*Hi, friends!*のデジタル教材では、すぐに音声が出ないこともあります。操作にもたつきがあればICTの魅力が半減します。そこで、iPadでイラストにタッチするとネイティブ音声が出る教材を作りました。音声も瞬時に出るように音声ファイルを編集しました。このようにすることで、授業はテンポよく進めることができ、インプット量がとても増えるため、耳に馴染みやすくなり、英語表現を覚えて発話するように導くことができます。タブレットは、担任が授業を進めるためのツールとして強い味方になると思います。

英語絵本を活用した授業実践



沖縄県那覇市立真和志小学校教諭 新城 秀樹

1. はじめに

外国語活動への興味・関心を高める手立てとして、英語絵本を活用した授業実践を行い調査・考察した。

英語絵本を活用することで、児童が興味・関心をもって意欲的に学習に取り組むことができ、また、児童に身につけさせたい資質や能力を自然に親しみ、実体験しながら獲得することができるのではないかと考え、取り組んだ。活動の方法としては、授業の終末10分間を「Storytelling Time (読み聞かせ)」として設定し、計10回(10冊)の実践を行った。

2. 絵本の選定について

国際理解、疑似体験、言語習得等をねらいとしつつも、楽しく豊かな時間にできるよう、以下の点を考慮して絵本を選定した。

- (1) くり返しが多く、リズムが心地よいもの。
- (2) ストーリーが簡潔で内容が理解しやすいもの。
- (3) 絵とことばがマッチし、児童が推測しやすいもの。
- (4) 既習の単語や表現を多く含んでいて児童に安心感を与え、意味理解につながるもの。
- (5) 外国の文化や生活を扱ったもの(世界に目を向ける動機づけとなるもの)。

3. 絵本活用時のポイント

実践では、児童とのやりとりを楽しみながら、意味理解につながるよう、以下のことを意識して実践した。

＜実践のポイント＞

- ・表情で伝える！
- ・「次に何が起きそう？」と予想させながら。
- ・文を切ってわかりやすく。
- ・違う言葉で説明してもよい。
- ・大きなジェスチャーを交えて(動作で教える)。

- ・ジェスチャーのコピーをさせてもよい。
- ・児童がわかる単語を確認しながら。
- ・児童のつぶやきや発言をつなぎ、意欲を喚起。
- ・児童の表情を見ながらやり取りできるように。

4. 実践事例

あらすじ:さまざまな動物が得意な動作を教え、「君もできるかい?」と聞いてくる。

事前指導:既習である身体の部位について確認。

本時絵本の活用ポイント:(★:読み聞かせ ◆:ふり返し)

★表現している絵の箇所を示しながら読む。(Head / Toe など)★絵を見ながらそれぞれの動物と子どもはどこが似ているのか考えさせる。★さまざまな動物の動きを表す動詞はくり返す。また、Can you do it?は“you”を強調し、I can do it!は“I”を強調する。◆言葉のもつ面白さや日本語との相違点等を見つけるために、気づいた点・よかった点・感想等をふり返る場を設ける。

読み聞かせの様子:

HRT: I'm going to read you a story. Today's title "From Head to Toe."
What animal can you see?

JTE: (絵本) "I am a penguin and I turn my head. Can you do it? I can do it!"

HRT: What did you hear?

Ss: Penguin, head, can.

HRT: Can? What does "can" mean? (can / can'tの復習) (日本語で内容の確認)

Everybody, can you turn your head? Try it! 次から、Can you do it?と聞かれて、もし自分ができるなら動作しながら答えてください。(JTEとデモンストレーション)

JTE: (絵本) I am giraffe and I bend my neck. Can you do it? I can do it!
(児童は答えながら動作をする)

HRT: Why can a giraffe bend its neck? (意味理解につながる発問) What's going to happen next? (先を予想させる発問) …以下、動物を変えてくり返す。

読み聞かせ終了後:絵本中の動物の動作など慣れ親しんだ表現を用いた質問や内容のふり返しをする。最後に「アメリカ人の作者は、いろんな人種の子どもたちを登場させています。もし、舞台が日本だったらどんな子どもが登場するか?」と問いかけ、日本について顧みる。

5. おわりに

実践後、毎回行った自由記述による情意面調査、(計10回)・選択肢によるアンケート(計3回)、また質問紙調査(t検定)から、英語絵本の活用を通して英語に触れる楽しさを感じ、外国の文化・言葉の違いを知ることができた児童が増えた。英語絵本の活用が学習意欲向上の一因になると実感している。

活動がいつもワンパターンになってしまいます。
どのような工夫をすればよいでしょうか。

A

活動がワンパターンになってしまうのは、実はベテランの先生に多く見られるように思います。例えば同じ学年を長年にわたり指導していると、先生自身も、ついこれまでの活動をくり返してしまいます。授業の準備も楽です。児童の反応も予想できます。それは悪いことではありませんが、時に授業の面白さを奪う結果にもなります。

もう20年以上も前のことですが、私はある高校で教えていました。ある年のことでしたが、いつも世界史を担当する先生が何かの事情で「政治・経済」の授業も教えることになりました。政治経済は彼の専門ではありません。初めて教える科目です。しかし、1年が終わってその先生が私に語ったのは「毎日がチャレンジだった！ 専門の世界史より面白い授業ができた！」というものでした。私にはなぜか忘れられないこととなりました。

どうしてこんなことが起こったのでしょうか。おそらく、彼は、専門ではないがゆえに、いっしょうけんめい授業の準備をしたのでしょう。生徒の反応も予想がつかず、授業でも予想外のことが起こったのではないのでしょうか。しかし、彼は予想外のできごとには驚きつつも、それを自らも楽しみ、生徒とともに授業を創っていったのではないのでしょうか。面白いことに、彼は「専門の世界史でも面白い授業ができた！」と話していました。

いつも高学年を教えている先生なら、時には低学年の指導にチャレンジしてはいかがでしょう。指導環境を大きく変えてみるにより、新しい発見があり、また新しい発想が湧き、ワンパターンから一歩抜け出すことができるのではないかと思います。



琉球大学教授
大城 賢

A

活動に「言語機能」(場面・状況・文脈・目的・課題)を持たせる工夫が必要です。「言語の意味内容」の扱いが「言語形式」(文法・語彙・熟語・発音)のためだけでは、結局、ワンパターンの活動になります(例1)。しかし、その扱いに「言語機能」がともなうと、深まりと広がり生まれ、活動がワンパターンではなくなります(例2)。次の例は、果物の絵カードを持っている児童とのやりとりです。

(例1) 教師: Do you have an apple?

児童: Yes, I do. / No, I don't.

(例2) 教師: Look! This is my fruit juice. I have an apple, a banana, and a pineapple. What do you have in your fruit juice? You can have three fruits in your fruit juice. Three fruits. OK?

児童: OK.

教師: A-san, what do you have in your fruit juice?

児童A: (I have) strawberry, banana, apple.

教師: Oh, you have strawberry, banana, and apple in your fruit juice. Delicious? Very good?

児童A: Yes!

教師: I see. Well, everyone. What (fruits) do you have in your fruit juice?

例1は、Do you have ~? I have ~. 果物の英単語という言語形式のためのやりとりで、「言語機能」がともなっていません。他方、例2には「フルーツジュースにどんなフルーツを入れる?」という「言語機能」(場面・状況・文脈など)があります。ぜひ、「言語機能」を取り込んだ活動を展開してください。



宇都宮大学教職大学院教授
渡辺 浩行



SAY "HELLO" WITH ALISON!

■ Modeling Communication Competence Skills through Classroom English

今回は、コミュニケーション能力のひとつである「談話能力 (Discourse competence)」を紹介します。これは、会話をしている最中に相手が言ったことの意味がわからないとき (Case A) や、相手にメッセージが伝わらないとき (Case B) に自分で解決して会話を続けることです。“Pardon?” や “Once more, please?” と聞く以外にも、実はたくさん方法があります。

例えば、Case A では “Hm, let me see?” や “That’s a good question!” を使って考える時間を確保したり、相手に聞かれた質問をくり返してみてください。

ほかには、“For example?” と例を聞いたり、“Do you mean...?” と確認の質問をすることです。具体的な例をもらうことで理解のヒントになります。また、意味を確認することで誤解を防いで、会話がスムーズに行われるはずですよ。

Case B では、別のことばで言い直す方法や例を示す方法、“Do you understand?”, “Do you know what I mean?”, “Are you following me?” と相手が理解しているのか確認する方法などがあります。

以上のいろいろな方法を使うとこのような自然な会話になります。

A: By the way, what do you want to be?

B: Hm...Pardon?

A: What do you want to be?

B: Want to be...?

A: Do you understand?

B: Not really.

A: Let me see, what job do you want in the future?

Singer, comedian?

B: Oh, job...mm, teacher.

A: You want to be a teacher.

「談話能力」は特に初心者にとって大切なテクニックです。日ごろから少しずつALTとの会話で使ってみましょう。子どもたちはそれを真似て覚え、コミュニケーションの名人になります。

(宮城教育大学特任准教授 根本 アリソン)

研究会紹介

すべての子どもたちに 充実した英語教育を!

～^{しそ}宍粟市外国語活動研修の取り組み～

本市では、2年前から小学校英語の教科化に対応するため、すべての教員の授業力向上をめざして年6回の「外国語活動研修」を行っています。講師には神戸女子大学の長谷川和代先生をお迎えし、JTEとALTのチームティーチングによる授業研究を中心に研修に取り組んできました。

また、長谷川先生の監修により、フォニックスやアクティビティなどを盛り込んだ授業の基本様式を「宍粟スタイル」として提案し、どの学校でも等しく英語教育が受けられるよう体制整備を進めています。

一方、宍粟市教育委員会は、5年間ALTとして勤務してきたエリザベス・サイモン先生を「イングリッシュ・コーディネーター」として任用しました。イングリッシュ・コーディネーターは、「宍粟スタイル」でモデル授業を行うなど、教員研修に貢献しています。

これからも長谷川先生のご指導を受けながら、イングリッシュ・コーディネーターと連携して、小学校英語の教科化に向けた準備を進めていきたいと思っております。

宍粟市小学校外国語活動担当校長

井本 孝

(兵庫県宍粟市立神野小学校校長)

文責:宍粟市立神野小学校 山本 敬子

小学校英語情報誌

Junior Sunshine Vol.1-1 (通巻1号)

非売品

平成29年5月18日印刷 平成29年5月22日発行 編集兼発行人 大熊 隆晴

印刷所 株式会社平河工業社 〒162-0814 東京都新宿区新小川町3-9

発行所 開隆堂出版株式会社 〒113-8608 東京都文京区向丘1-13-1

☎03(5684)6121(営業), (5684)6118(販売), (5684)6115(編集) <http://www.kairyudo.co.jp/>



開隆堂出版株式会社

〒113-8608 東京都文京区向丘1-13-1 ☎03(5684)6111

北海道支社	〒060-0061	札幌市中央区南一条西6-11	札幌北辰ビル8階	☎011(231)0403
東北支社	〒983-0852	仙台市宮城野区榴岡4-3-10	仙台TBビル4階	☎022(742)1213
名古屋支社	〒464-0802	名古屋市千種区星が丘元町14-4	星ヶ丘プラザビル6階	☎052(789)1741
大阪支社	〒550-0013	大阪市西区新町2-1-10	1-16	☎06(6531)5782
九州支社	〒810-0075	福岡市中央区港2-1-5	FYCビル3階	☎092(733)0174